



4人の参加者が、それぞれが見つけた地域の魅力や課題、今後の可能性について発表しました。

建築を学ぶ学生は、農業と建築の関連性から空き家活用の提案を行い、自給自足の重要性や地域文化の継承について触れました。

都市部出身の大学生は、まちのコンパクトな暮らしや生活利便性に驚き、移住体験施設の整備や多様な農業プログラムの充実を提案しました。

また、社会人参加者は農業施設での作業を通じて学んだチームワークの大切さを報告するとともに、使われなくなった学校を体験型施設に改修する案や地元産品の販売イベント、通信環境を整えた古民家のワーキングスペース活用など、具体的な地域活性化のアイデアを示しました。

庄原さとやま留学インターン(2週間)



▲留学インターン・お試し留学でさまざまな仕事や暮らしを体験

地域の困りごとと解決プラットフォーム「ひばサポ」の構築

庄原ファンクラブでは、これまでの交流をさらに発展させるため、新たに地域課題解決に特化したプラットフォーム「ひばサポ」を立ち上げる準備を進めています。

地域や農家、団体からの人手不足などの課題を「ミッション」として登録し、会員のスキルや意欲と結びつけることで、地域とのつながりを強化し、交流から貢献・共創へと進化させることを目指しています。

地域の困りごとと解決プラットフォーム「ひばサポ」の構築



お試し留学は、地域の仕事や日々の暮らしを体験できる2泊3日のプログラムです。

令和7年度は、西城、東城、比和、口和、総領の5地域で実施し、30人が参加しました。

いずれも短い期間ながらも、笑顔と学びにあふれた時間となり、庄原への理解や関心を深めるきっかけとなりました。こうした取り組みを通じて、本市と関わる若者が今後さらに広がっていくことが期待されます。

※詳しい報告はホームページをご覧ください。

庄原さとやまお試し留学(2泊3日)

さとやまの暮らしと仕事に触れる。庄原さとやま留学事業 実施報告



▲卒業報告会で1年間の留学を振り返る竹廣さん

「庄原さとやま留学事業」は、全国の若者に「本市を知ってもらい・来てもらい」、仕事や暮らしに挑戦・体験してもらうことで、参加者・地域の人が一緒に活動して活性化に向けた取り組みを進め、本市の大切な資源を未来につなげていくことを目的としたプログラムです。

農林業などの就労体験を通じて本市の暮らしを体験し、若者と地域のつながりを深めることを目指しています。

令和7年度に実施した、1年間の留学、2週間のインターン、2泊3日のお試し留学について報告します。

庄原さとやま留学(1年)

3月24日、市内で「庄原さとやま留学」の卒業報告会を開きました。

プログラムに参加し、1年間庄原で暮らし学んだ竹廣さんは、学びや自身の変化について発表しました。

当日は、受け入れ農家のほか約30人の関係者が参加し、温かみのある雰囲気の中で行われました。

竹廣さんは、豊かな自然に囲まれた本市での1年を振り返り、「仕事」「交流」「自然」という三つの柱で自分の可能性を広げることができたと話しました。

地域住民との交流会、週末の自由時間も含め、多彩なカリキュラムに積極的に取り組みました。

また、庄原に関わる若者で企画・

運営した「ぼかば広場」では、イベントの立案や進行も経験し、新たな出会いや、留学生と地域住民が交流する場となり、若者目線で庄原の魅力を伝え、地域の課題について共有する機会にもなりました。

こうした活動を通じて、竹廣さんは「庄原さとやま留学を通じて、多くの出会いや学びがあった。自らの成長のきっかけとなった庄原に、これからも関わり続けたい」と感謝の言葉を述べました。

竹廣さんの卒業は一つの区切りですが、本市との関係はこれからも続きます。



▲多くの関係者に見守られながら行われた報告会

今後、具体的な内容や運用方法を検討しながら事業を展開していきます。

進捗や取り組み状況については、分かりやすく報告していく予定です。ので、皆様のご理解とご参加をお願いします。



▲「ひばサポ」のイメージ

問い合わせ

政策企画課関係人口創出係
0824・73・1209